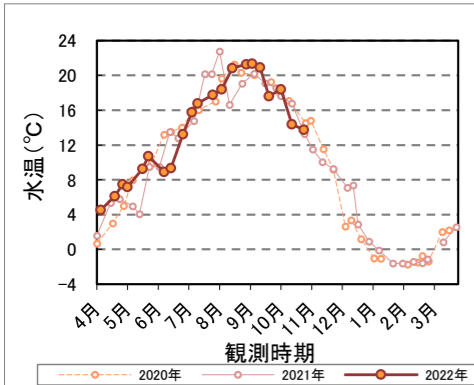


◎オホーツクタワーの動物プランクトン分析速報 (2022年10月)

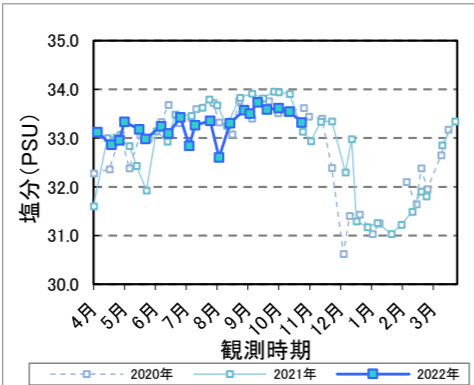
海洋環境データ

※観測：紋別市

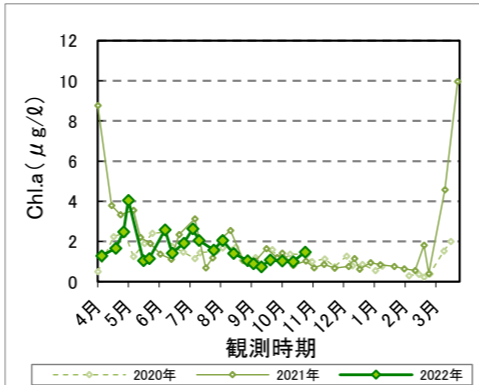
◎水温 (0~9mまでの平均値)



◎塩分 (0~9mまでの平均値)



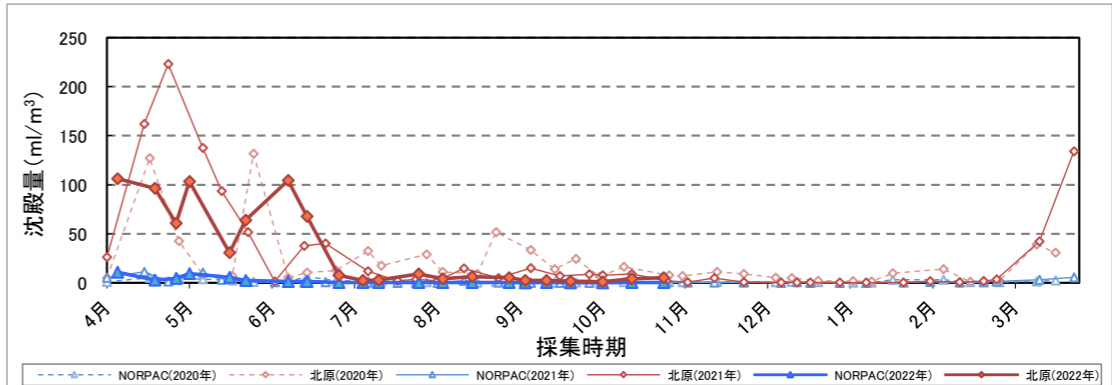
◎Chl. a (0~9mまでの平均値)



動物プランクトンデータ

※分析：(株)エコニクス

◎動物プランクトン・沈殿量



概要

Table with 3 columns for dates: 10月4日, 10月15日, 10月27日. Rows include: 平均水温 (°C), 平均塩分 (PSU), 平均Chl.a (µg/L), 沈殿量 (ml/m³), 主な出現種 (listing species like Acartia, Mesocalanus, etc.), and 備考 (notes on sampling methods and species abundance).

出現量の多かった種類

Grid of images and descriptions for key species: Acartia omorii, Copepoda (nauplius), Acartia steueri, Podon polyphemoides, Paracalanus parvus, and Pseudevadne tergestina. Includes photos and brief biological notes for each.

※海洋環境データ欄の水温、塩分、Chl.aのグラフは、水深0~9mまでの平均値をプロットしたものである。平均水温、平均塩分、平均Chl.a欄の数値は、表示の都合上、水深0~9mまでの平均値を小数第2位で四捨五入した値で示し、グラフ上の表示と異なる場合がある。

※種名の先頭に“◎”がつく種類は、出現量の多い種類を示す。[]内の“+”は分析者の経験から、サンプル中の個体数の多さが後述の程度であると判断し、区分したグループである(+)出現、(++)やや多い、(+++)多い、(++++)かなり多い、(++++)極めて多い)。

※種名の後ろの記号は、分析者の経験から北海道における出現傾向に後述の特徴があると判断し、区分したグループである(◆冷水性種、◆暖水性種、◆汽水性種)。

※今月のサンプルには珪藻類(植物プランクトンの仲間)、ヤコウチュウ Noctiluca scintillans、腐植質(主に枯死・分解した植物由来の物質)が多く含まれており、沈殿量の数値はこれを含む(ヤコウチュウは動物プランクトンとしての分析対象とはしなかった)。

※参考文献：

List of scientific references including works by 千原・村野 (1997), Wilson (1966), Pinchuk et al. (2006), 林 (2006), 西・加藤 (2002), 古賀 (1960), 大越・野村 (1990), and 大塚・上田 (2007).